

| | |
|------------|--|
| 教員名 | 中村 俊直 (NAKAMURA Toshinao) |
| 所 属 | 文教育学部言語文化学科英語圏・欧州言語文化講座 |
| 学 位 | 文学修士(1979 東京大学)、D.E.A.(1982 ポール・ヴァレリー大学) |
| 職 名 | 教授 |
| URL/E-mail | tn@cc.ocha.ac.jp |

◆研究キーワード

視覚イメージ / 言語記号 / 記号論 / 詩学 / 情報伝達

◆主要業績

総数 (1) 件

・「ヴァレリーと死の誘惑 『真実らしい物語』について」

◆研究内容

- 1 フランスの19世紀末から20世紀前半に活躍した詩人・批評家のポール・ヴァレリーに関する多角的な研究。さらに彼に関係する文学者や芸術家並びに彼の生きた時代に関する総合的な研究。
- 2 視覚イメージと言語記号の両者の機能の比較研究。特に写真、絵画、言語表現の三者の相互影響関係の考察。
- 3 日本の近現代の文学者の営為にフランス文学が与えた影響の解明。また逆に日本の美術作品がフランスの文学や美術に与えた影響の解明。

◆教育内容

学部

- 1 フランスにおける言語文化と映像文化との関係を比較対比的に考察する。換言すれば、それは言語表現（特に文学）と視覚イメージ（絵画、写真、映画など）との関係の問題である。

- 2 フランスの20世紀の作家のアンドレ・ジイドの研究を行う。彼の代表作の『贋金つかい』を中心に読解と分析を進め、さらに彼の他の作品との関係にも触れる。
- 大学院

- 1 フランスの20世紀の詩人・批評家のヴァレリーの最初期（即ち、年齢にして10代後半の時期）の詩作品を精密に読解し、どのように詩人が誕生したのかを考える。

- 2 フランスの19～20世紀の文学者（ゴーチエ、マラルメ、ヴァレリーなど）の舞踊論を読みながら、それぞれの詩人や作家にとって、舞踊の本質とは何かを明らかにする。

◆将来の研究計画・研究の展望

視覚イメージと言語記号の両者の機能を総合的に比較考察する。文化史、社会学、記号論、美術批評、文学批評、情報伝達論などの多様な視点から研究を進める。歴史的に見れば、現代の社会・文化の特徴の一つは、これら二つの表現・コミュニケーションの手段の共存ならびに相互影響であるといえるからである。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

・視覚イメージと言語記号の両者の表現や伝達の機能の比較研究

◆受験生等へのメッセージ

大学は自由にものを考え、探求する場所です。大学での学問の範囲は明確に限定されているわけではありません。したがって、はっきりした答えが見つからなくてもよいのです。重要なのは、思考や探求の結果ではなく、その過程です。その過程で、たくさんのことを考え、調べ、さらにはいろいろ迷うことが、のちのち大きな意味を持ってきます。そのようにして、柔軟な思考力や幅の広い判断力を養成することが、大学を卒業してからの人生において大きな力となることでしょう。昔からよく言われるではありませんか、「人生は長く、学生生活は短し」と。(少し違うか・・・)